

新技術 解説

カーバムナトリウム塩とフルキサメタミド剤を活用した新たなハウレンソウケナガコナダニ対策

山口県農林総合技術センター ほん だ よし ゆき
本 田 善 之

はじめに

ハウレンソウケナガコナダニ *Tyrophagus similis* Volgin, (以下コナダニと略 (図-1 左)) は、施設ハウレンソウ栽培における難防除害虫である (春日・天野, 2000)。コナダニはハウレンソウ栽培歴が長い圃場で発生しやすく、一度発生すると春季と秋季に継続的な被害をもたらすことが多い。コナダニに加害された葉は小孔が生じて褐変するため (図-1 右)、商品価値が大幅に低下し (中尾・黒佐, 1988)、安定生産の大きな障害となっている。コナダニは土壌表層に生息し土壌中の藻類を餌とする (本田ら, 2013)。また、藻が繁茂した土壌ではコナダニの増殖が促進されることが明らかになっている (本田ら, 2017)。コナダニの防除には散布剤が多く使用されるが、散布剤は経口作用により効果を発現するものが多く、土壌中のコナダニの餌には薬剤が付着しにくいことから防除効果の高い薬剤は限られていた。これまで使用されていた防除薬剤は、ジクロロボス乳剤 (商品名: DDVP 乳剤, 2012 年 9 月失効) から、フルフェノクスロン乳剤 (商品名: カスケード乳剤) やテフルトリン粒

剤 (商品名: フォース粒剤) 等へと移行してきた。フルフェノクスロン乳剤に対する抵抗性個体が確認されている圃場では、カーバムナトリウム塩液剤 (商品名: キルパー液剤) とクロルフェナビルベイト剤 (商品名: コテツベイト剤) が主な防除薬剤となっている。しかし、カーバムナトリウム塩液剤には、散布時に土壌と反応して強い催涙性ガスを発生し、防除者の眼や皮膚を刺激 (催涙性・刺激性) するという問題があることから、この刺激への対策が求められている。本稿では、カーバムナトリウム塩液剤の散布時に生じる刺激の軽減策について、様々な角度から検討した結果を紹介する。また、コナダニ防除薬剤として 2025 年 9 月 18 日に登録されたフルキサメタミド乳剤 (商品名: グレーシア® 乳剤) の効果と有効な使用方法についても報告する。

なお、以下の試験データはすべて統計解析ソフト R 4.5.0 を使い一般化線型化モデル (GLM) で解析した。グラフ上の異なる英小文字は Tukey-Test により 5% 水準で有意差があることを示し ($p < 0.05$), n.s. は有意差なしを示す。棒グラフのエラーバーは標準誤差を示す。



図-1 ハウレンソウケナガコナダニ (左) とハウレンウ被害株 (右)

A New Control Method for Spinach Mites (*Tyrophagus similis*) Using Sodium Carbam and Fluxamethamide. By Yoshiyuki HONDA

(キーワード: ハウレンソウケナガコナダニ, カーバムナトリウム塩, コードレス高圧洗浄機, パーミキュライト, フルキサメタミド, 防除法)